

“カイツカイブキ” 貝塚伊吹 辞書を引いたが特筆なし。植物にはそぐわない漢字だね。なんで貝塚、なんで伊吹。家の周りの二辺に“カイツカイブキ”の生垣がある。木の名前を知らない人も、ああの木かと生垣には定番の木だ。毎年その木を剪定する。最近は多少うまくなくて、うねうね波打たせて恰好をつける。昔コンクリートブロックだったが老朽化で生垣にした。木は“カイツカイブキ”と決めていた。隣家の生垣が“カイツカイブキ”で、しかも毎年植木屋が手入れをするので、それはそれは格好よく堂々としていた。植木屋さんは秋ちゃんの旦那さん、せっせこ工事をしてくれた。竹で垣を作ってそれに1メートルぐらいの高さ、ひよろひよろの“カイツカイブキ”を結わいつけた。半年もすると予定どおりに何本かが枯れ、植えかえた。生垣を作ってからの長い間スケスケ、ヒョロヒョロでみっともない、中はまる見えといいことがなかった、恰好が悪かった。10年15年経て隣家と同じように堂々としてきた。これはオレが刈るぞ剪定するぞと決めて毎年やってきた。

電気バリカンで刈る。季節は今頃がいい。近所に来る植木屋も5月頃からぼちぼち来る。暑くもなく作業がしやすい。見ていると植木屋も腕に上手い下手があるようだ。うまい植木屋は缺一本で、一日中ちよきちよき、終わると、なんときれいに刈っている。惚れ惚れするような仕事をして帰って行く。あんなアンチャン(40歳代)に当たると得だねえ。オレ、植木屋の下手なやつよりまだ数段下手、ま、楽しい、多少きれいになる、それでいいじゃないですか。電気バリカンでブイーンと“カイツカイブキ”を撫ぜる。彼らのデコボコを捉まえて、ブイーンと撫ぜる。太い木の棒で“カイツカイブキ”の上やら横やらを叩いて枯れた屑を落とす。茶色い屑と、刈りたての緑の屑がグッドコントラスト。それからもう一度撫ぜる。一日1,2時間づつと暇を見つけて4.5日でバリカンは終わる。その後、溝に落ちた屑の掃除、これにも2,3日かかる。木屑を袋詰めして終了だ。10年ぐらいやっているとうまくなってきたような気がする。生垣の“カイツカイブキ”がうねるように波打つようになってきた気がする、と自賛。

“カイツカイブキ”の傍に“カンナ”

緑の傍に真紅の花  
半分枯れてくしゃくしゃ  
みずみずしい赤の下に  
うす汚れたくしゃくしゃ  
好きだねえこの花  
ぼお〜っと見ている

図版は“カイツカイブキ”の傍に“カンナ”を描いた。

緑を描く。次に、花は紙切れに色を塗ってくしゃくしゃにしてからスキャン。画像2枚を合成。

福島県、原子力発電所の事故から一年以上経って、全国の原子力発電所の全てが定期点検で止まった。

「原子力発電はやめるべきだ」

「原子力発電は必要だ」

二つの意見が日本国中に渦巻いた。考えが意見が渦巻いている最中に、関西電力の大飯原子力発電所が稼働を決めて、発電を始めた。

電気を作って配達する人は、電力会社だけ。それでいいのか悪いのか。

火力、水力以外に発電方法は無いのか。有りそうでこれと言ったものが無いような。

原発を廃止するなら、残った核はだれが金を出して、何処に、どんな方法で処理する。核とは何が怖い、どう怖い、何時まで怖い。

世間の智者も論者も喧しく持論を展開している。裏には政治、政策、利権とそれらに勝負を挑む人、大先生のビジョン、何処までが正解なのか、何処からが未知の世界なのか、どの大先生が正直なのか、他とのしがらみが無いのか・・・。いろんな人たちがグチャグチャ絡んで、どちらに進んでいるのやら、どちらが GOOD な方法選択やら、全くわからない。

我がとも“きぬちゃん”は「原発反対」{原発絶対反対}と若いころから叫んでいる。

「通じない相手には、みんなで叫ばねば、何度も叫ばねば」と日々叫んでいる。

もし日本で（何処の国でも同じだが）今回の福島より大きな事故が起きたら、日本の国土の半分ぐらいは滅びることになるだろう。もし世界が核攻撃・核戦争を選んだら、地球の何分の一かは滅びることになるだろう。日本も世界も「核爆発も核戦争も起こらない」「起こらない」という言葉に賭けている。「悪いことは起こらない」を前提にして、伝統、習慣、規則を構え、生活を人生を保守しようとしているのかな。何年か経って“賭け”が“丁”と出るか“半”と出る。“丁”と出たら「勝てば官軍」「英雄」「智者・仁者」になる。“半”と出たら「愚者、詐欺師、犯罪人」になる。「正・不正」「善・悪」「右・左」は時間が経たねばわからないことも多い。

お前はどうかと問われたら、

「人々が市民が国民が、隆盛、豊穰、安泰をもぎ取ろうとするが、それは虚構の世界と違うのかな。みなさん、あまりに欲をかいたら、いけませんぞ」

「澱みに浮いているオレ、澱みが無くなれば、水が無くなれば、滅ぶだけ」

「時間が経てば、オレだけでなく、家族も子孫も友も、滅ぶだけ」

図版は、20歳の頃“青木繁”に刺激を受けて“歩く人たち”の絵を何点か描いた。それを思い出してデッサンを。行く先は、輝く未来?滅びる人達?

## 0086 ブナの木 120712

丸山健二著「ブナの実はそれでも虹の夢を見る」をぱらぱらと読み始めた。

この先生の本を、ここ10年以上読み続けている。彼の饒舌が快く楽しい。次から次に紡ぎだされて来る言葉が、右から左にすい〜っと我が脳を撫ぜる。右から左に撫ぜるだけだから、オレの脳もたいした反応も無くいい加減なものが、言葉の羅列が、流れが心地いい。

「ブナの実はそれでも虹の夢を見る」の中の一説にブナの木を愛でる文章があった。

地上の神を任じているのかもしれない巨木・・・

幸福を予感させるほどの素晴らしき空間・・・

こんな文章を読んで、ブナのことならオレも言いたいことがある、オレもブナが好きだ。ブナはいい、山の中のブナ林に入ると気持ちがぞくぞくする。山の中にブナばかりが生い茂っている場所がある。歩いて数分で終わる処もあれば、山全体がブナ林という処もあった。オレなりのブナの話をお聞かせしたいが、その前にまずブナの事を調べてみた。

どんぐりはブナ科の木の実。え、あれらの木はブナ科だったのか。知らなかったが、あれらの木とは、トチ・ナラ・カシ・シイ等の事。人が使うには役に立たない木と聞いていたが、ドングリは哺乳類の食糧だ。山の中、森の中の落葉広葉樹だ。

樹皮は元来グレー色だけど、地衣類、コケ類が覆って白、グレー、深いグリーンと、紋様がある。と解説を見て納得、ひと抱かえもある幹が、くっきりした紋様を描いている、ブナ独特の色相を見せてくれる。その紋様の太い幹を中心に葉の鮮やかな緑色が、陽に透過した葉のより鮮やかな緑色が目に焼きつく。

ブナだけを見るためにあちこちと“おっかけ”をしている方々を見つけた。やはりそういう方がおられるのだ。ブナの事をよくご存知で、ブナ林がますます盛んに育っているとか、立派な樹林だが若木が少ないのが心配だとか、なかなか詳しく見ておられる。以前徳島に行った時、たまたま散策した山がどこだったかと検索したら、“高丸山”とでた。“おっかけ”の方が、「樹の勢いがちょっと」と心配しておられた。

その、たまたま散策した高丸山のブナ林は、鬱蒼と堂々と森閑としていた。案内板にブナ林の賛歌とここまで成長するのに千年単位の時間がかかったと述べられていたような・・・。ブナは本州では1000~1500メートルぐらいの高地に育つらしい。日本有数の白神山地のブナ林もみたいと思うが、今のオレには東北はあまりに遠い。

先日、滋賀県比良山系の武奈が岳（ブナガタケと字を書きながら、武奈はブナとは違うよな、と思案・・・）の帰り、小さいブナ林を見つけた。歩けば数分で終わってしまうような規模だけど、踏み込んだ途端に「わっ、いい、美しい、心地いい」と感嘆。

色がいい。形がいい。写真を撮るが、その雰囲気なかなか出せない。絵でとがんばるが「もひとつ」じゃ。役に立たない木ということで伐採されて杉や檜に植え替えられているらしいけど、山に登ればまだまだ見る事ができる。

## 0087 夢の話 160712

<鶏が戦う>梅雨の終わりの蒸し暑い夜、これを文章に纏めなければならぬと、悶々としていた。本気で一生懸命悩んでジリジリしていた。夢の中では鶏は出演してない。『モロッコ』と呼ばれる豆が主役で、その『モロッコ』を使って鶏が戦う。鶏が戦うために、並んだモロッコをいかにするか、そのモロッコを4.5本並べていかに纏めるか、どのように纏め上げて文章にするか、ジリジリ考えていた。彼らの武器となるモロッコが4つ5つ並んでいる。頭がくらくらするほどに考えた。鶏が戦うために色々調べなければ・・・。どの剣が一番いいのか選ばないと・・・。どのモロッコが一番いい剣になるのか・・・。

朝起きて、3.4時間経ってもケタイな記憶が鮮明に残っている。画像として登場したのはモロッコ豆だけで、“鶏”も“鶏の戦い”も画像には出てこなかった。

十数年前、鶏の事を調べる必要があって、図書館で面白い記事を見つけた。本も内容も忘れたが、その一節に「鶏は、気高い精神力と闘争心を持っていて、中世ヨーロッパの騎士の精神的なよりどころだったとか。特に雄鳥は勇猛果敢で、いったん戦いが始まると相手を滅ぼすまで攻撃の手を休めない、音をあげない、冷徹に攻撃の事だけを考える、そのように攻撃をし続けるというようなところが、戦士たちの憧れ、目標となったとか」と出ていた。鶏とは“食い

もの” “チキン” としか思っていなかったオレ、鶏君を見直しましたね。河内の八尾で、鳥に賭ける、『軍鶏の喧嘩』などと爺さん連中が言っていたのを思い出す。

この豆、『モロッコいんげん』普通のいんげん豆とどう違うのか、調べたがわからない。絵の教室にそれをもってきた女の人們が『モロッコ』と呼んでいた。これに柄（つか）をつければ形だけは立派な剣になる。これを剣にして鶏に戦わせるとは、本当に不思議な発想。こんなことに夢中になって一生懸命夢を見て、午前中もこの事で頭がくらくらするとは「ばっかみたい」だね。夜になってもう一度纏めると、『モロッコいんげん』を図版のように並べて、鶏の闘争用の剣として、いかにすべきか、どうするか、なんて考えてクラクラしていた。

もう少し『色っぽい夢』『金銀ザクザクの夢』をみたいものだねえ。一日中ホンワカ、ニヤニヤなんて、いいもんね。

0088 いじめ 200712

連日いじめの話が喧（かまびす）しい。TV, 新聞に縁の遠いオレでも聞こえてくる。立派な意見、なるほどという意見も多いと思うが、マスメディアは＜教師、学校、市役所＞を攻撃目標にしているように見える。マスメディアに対していつも思う事は「報道の自由だというけれどそをつけ。それは建前で、は自身の金・名誉・地位の為の営利の自由だろ！」中には真摯にボソボソ書き言いしている文章や画像はあるけれど、大衆はそんなまどろっこしいものは見ない。「あいつが悪い、嘘をついている、人を騙そうとしている、そう見えませんか」と次から次に大衆を煽る。そういう体質、体制だ。次から次へその筋の玄人も素人も同じような意見を言う。何日かすると悪者が浮かび上がってくる。

たまたま、吉本先生著「真贋」の前書きにタイムリーな文章。下記抜粋。

すこし前にある新聞社からいじめられている子どもたちに向けて何かメッセージを書いてほしいと頼まれたことがあった。今さらとくに書く必要は無いと丁重にお断りをした。この問題に関して、僕の考え方は、一貫している。いじめる方もいじめられる方も両方とも問題児だ、ということだ。ぼく自身いじめっ子だったという過去がある。たいていのクラスにはいじめられやすい子というのがいた。なんとなく恐縮したような雰囲気だったので、からかいやすかったせいだと思う、僕は腕白で悪童だったから、先頭を切ってからかったり、小突きまわしたりしていた。ある日いつものようにクラスのいじめられっ子を追いかけまわし、馬乗りになっていたら、その子は履いていた自分の下駄を脱ぎ、その下駄で僕の頭を思い切り殴った。中略。

このやろう生意気だ。不思議な事にそういうことは一切思いつかなかった。逆に僕は、面白半分になんか人の事をからかったり、いじめたりしてはいけないと本気で思った。いじめる根拠があるならまだしもその子には関係ない自分のうっ憤を晴らすためや、全く違う目的でいじめたり、からかったりすることはよくないことだ、と大変反省させられたという記憶がある。中略。

誰もが生死を懸けて自分の人生を生きている。当たり前のように、誰もが当たり前とは思っていないのかもしれない。

オレも含めて、程度の差こそあれ、区別、差別、いじめ、恐喝、搾取をしたことがある、されたことがあると、覚えはあるだろうな。

「そういえば、こういう事をしてしまった」「あのとき、あんな事を言ってしまった」と反省交じりに話す人。

「あいつメ懲らしめてやった」「馬鹿な奴だ、コロッと騙されてしまいよった」と誇らしげに話す人。

「・・・」黙って悔し涙をぬぐう人。

普通の場合、時が経って、心の中に想い、反省が残るだけだ。これが暴行傷害、自殺殺人、金銭トラブル、詐欺となると話は別で、立派な犯罪だ、事件だ。“いじめ”という言葉は嫌いだ。先生方、邪魔はしませんので、静かに考えてください。マスメディアに載せたらアカン。

100円まではいたずら、1000円以上は泥棒だ。

平手打ちまでは喧嘩、拳骨で思い切りは暴行だ。

ひそひそ話しは井戸端会議、ひそひそと一人を攻撃しはじめたら犯罪だ。

#### 0089 水嵩の増した安威川 240712

近所の安威川に毎日のように出かけます。梅雨の季節、川の水嵩が増し河川敷が浸かる事が2.3回、台風等による雨も含めると年に5.6回河川敷が水に浸かります。河川敷とは川の土手の中に平坦な部分が両側に在って、さらに深い部分に水が流れている。最近の川は、土手の内側や河川敷から水底まで、石積みやコンクリートブロックで補強されている。環境保護の観点からは、自然の土や草がいいといわれているが、安全管理やら耐久性という事からコンクリートが選ばれているのかな。今回はこの問題はひとまず置きましょう。

自宅から川まで自転車。土手下に自転車を停めて階段を上がると、泥水急流が河川敷の安全柵を超えている。小さい川と雖も幅員50メートルの川、水にのまれたら一溜まりもあるまいと、こういう時は早々に退散する。

先日の雨、朝から晴れているのに、近畿地方中部に大雨洪水注意報が出ていた。それこそ「一天にわかにかき曇り」ザザッと降りだしたらその雨の勢いのすごいこと。慌てて窓を閉め、外を見ると樹の幹を伝う雨水が、水道の蛇口を全開したぐらいの勢い、水量で地面へと落ちていく。屋根に叩きつける雨音もすごい。この雨では車もワイパーをフル回転してもスピードを緩めないといけないぐらい。下ではたちまち水溜りができている。なるほどこれが来るから大雨洪水注意報かと納得。ここら辺りは平野部だけこの程度の雨なら、山間部はさぞかしすごかろう。その雨は1時間ぐらいで上がった。今日の雨は、河川敷を超えているかいけないかと行ってみると、泥流だが河川敷まで50センチはある。普段は1メートルぐらい下に水が流れている。上流に向かって進むと小ぶりの白鷺が流れの縁に居た。餌を探して川面を見ている。川面を見ながらオレの事も警戒しているのがわかる。「あんな泥水の、しかも急流で、鷺君、魚が見えるのか？もし見つけても飛び込むわけにはいかないのにどうするの」としばらく見ていたが、さすが、狩り下手の鷺君、ひらりと向こう岸へ飛んで行った。鷺君の為に言いますが、飛翔スタイルひらり感は優雅で美しい。立ち姿もなかなかのものである。歩く姿も長い脚をひょいひょいと悪くない。ただ鳴き声が・・・ひどい。

以前大水が引いた後、ダシジャコ大の魚がたくさん干涸びていたが、なかなか無くならなかった。鷺君は生き餌専門、ほかの鳥も動物も干物は好きではないのかな。ミミズも同様で、長い間干涸びてそのまま地面に在る。

安威川、水が濁っても、澄んでいても、草木の緑、陽の光、泥に土、コンクリートに鉄、何もかもがキラキラ、何もかもが生き生き、都会の傍の自然、それなりに“よし”である。夜もいい。月明かりの水、真っ黒な草木、夜も、それなりに“よし”である。最近夜来る時には、登山用ライト持参で来る。目が鈍感になっている。人とぶつからないためだ。

#### 0090 しょうもない 260712

“しょうもない”と何時ももいうが・・・と調べたら“仕様もない”とある。ちゃんとした言葉だった、なるほど。

“しょうむない”ともいうが、これは関西の方言なのかな。

オレの事を「あんた変わっている」と言う人がいるが、本人はいたって常識人と自負している。

ただ思うに、ほとんどの人が「好きだ」「おもしろい」と話して、喜んでいる事に、無関心にそっぽを向いている。その一つにスポーツがある。世の中、間もなくロンドンオリンピックが始まるとかで、ほとんどの人が今か今かと待ち望んでいる様子だけど・・・、とオレは無関心。とはいえ、〇〇さんがメダルを取ったと聞けばオレもそれなりに喜ぶ・・・が。

三十歳代後半から登山、三年前からバドミントンを始めた。山は楽しい。歩くのがいい。バドミントンもいい。鈍感なオレが、打ち返せる、高く飛ばせる、うまく入ると有頂天。もちろん同じように大汗が出る、体力がいる、怪我をしないように楽しんでいるし面白いと自画自賛。よそから見れば不細工な格好、フォームが様になっていないといわれているかもしれないね。ま考えてみれば、オレの場合、スポーツを見ること、観戦すること、選手がやっているスポーツに関心が無いのかな。と解説分析しても仕方なし。何人かで集まって、酒が入り、声高に話さすうち、皆さんそれらの話に夢中になりだすと、オレは“しょうもない”となるわけです。

というわけで、オリンピックも、野球も、サッカーも、オレにとっては、よその世界だ。

町内に“なげやり”のT先生がいる。80歳前だが非常に元気。本当は“やり投げ”の有名選手だったらしい。オリンピックまでは行けなかったが、やり投げ・リレー・障害物競争で国体に10回足らず出場しているとか。酒好きで若いころは大暴れもし“なげやり”のT先生と渾名されている。そこまでやった選手なので、子どもへの指導もなかなかのものだ。窓の内からグラウンドを見ていると、悪戯鬼どもに、走り方、バトンの渡し方、スタートの仕方と指導している。永年の自分の経験、指導の経験から、つぼを心得て、つぼにはまって、子ども達がみるみる“様”になって、上手になって行くのには感心する。あっぱれなおっさんである。

図版は進行形と言ってもほとんど出来あがりの絵の部分。水の流れ、風の流れを描いてみたかった。

## 0092 祭り 310712

昔、田舎を歩いていた。小さな祠に、提灯が吊るされ灯っている。祠の中は暗くて分からないが、石か木の像があって、ローソクが灯され供物が添えられていた。飾られているのは桃、きゅうり、なすび、すいか、うり、湯飲み茶碗の中身は酒かな。爺婆が何人か座っていた。足元には蚊取り線香、背もたれのあるパイプいす、団扇を使いながら黙って座っていた。今思えば当時の爺婆、まだ60歳代かもしれない。神さん、仏さん、お山に、大木が混在する中、ぼ～っとした時間が流れ、皆さん何かを想い、畏れ、感謝し、亡くなった人を思い出し、若いころを思い出していたのかな。

昨今の爺婆、茶を飲み、酒を飲み、一日中でもしゃべっている。今日の事、昨日の事、TVの事、天気の話、災害の話、人の恋愛、死亡にと話題に事欠かない。全部吐き出す。言いたい事を全部言う、本当は身体の健康の為にはこれがいい。

が・・・、皆さん、全部吐き出したらあきませんぞ。人生、全部吐き出したら、何も残らない。

考えたり創ったりする為に、澱を溜めておかんと。

おもしろい文章見つけた。丸山健二<貝の帆>

人間が永久に存続する価値のある生き物であるかどうかは、実のところ、私にもよくわからないのだ。また、宗教的尊厳に彩られた靈魂の不滅説を思って慰めとするような楽観主義者にもなれないのだ。

畢竟するに、ありとあらゆる生命と同様、我々魂もまた、無限に膨張する宇宙の中を闇雲に突っ走るしか能がないのだろう。そうした存在の主たる目的が一体何であるかについて、今もってわからない。果たして目的があるかどうかさえもわからない。

普遍的自我は押しも押されもしない事実かもしれないし、幻想かもしれない。あるいは、そのいずれでもないかもしれない。時間と空間のめくるめく軌道に沿って巨大な円を描いているのだとしても、その軌道上のほんの一瞬に存在する者にとっては何の関係もない事だろう。この世は常に有為転変に満ちており、多種多様な人間像から派生する凡百の迷いがひしめき、生と死が、喜劇と悲劇が休むことなく押し合いへしあいをくり返している。よしんばこの惑星が瀕死の恒星の道連れにされて消滅しても、他の太陽系のどこかの惑星で奇妙奇天烈な靈長類たちの滑稽で悲しい営みが引き継がれてゆくのだ。

図版 自然の中に入ると、四肢を伸ばして祈り、語る。そうしたくなる。